

青少年教育指導者等の養成及び資質向上事業

「学級や集団の力を生かす体験学習法指導者講習会」

1. 趣旨 冒険教育の手法や考え方について体験を通して学び、学校教育や学級経営、社会教育等の場で活用できる、集団の中での望ましい人間関係づくりや個人の成長を促すための指導技術を身につける。

2. 事業の概要

- (1) 期 日 令和3年7月10日(土)
(2) 参加者 20名(学校関係者・青少年教育関係者など)

		20代	30代	40代	50代
男性	11名	8名	1名	1名	1名
女性	9名	4名	5名	0名	0名

3. 企画運営のポイント

- ①MAP(みやぎアドベンチャープログラム)研究会の協力のもと、PAやMAPの手法を活かした集団作りについて、体験を通して学ぶ機会とする。
②コロナウイルス感染症の影響で学級や集団作りに悩んでいる教育関係者等に対して、新しい生活様式と連動した学級経営について考える機会とする。

4. 日程

9:30 12:00 13:00 16:00 16:30

開講式	演習① アイスブレイク グループでの課題解決	昼食	演習② グループでの課題解決 ワークショップ 学校教育に生かす体験学習の展開	質疑応答	閉講式
-----	------------------------------	----	---	------	-----

5. 主な活動内容



① 距離を取り、非接触で行うアイスブレイク



② グループで体と頭を使って課題解決



③ グループごとに試行錯誤しながら課題解決



④ ホワイトボードを使用した振り返り

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：90% やや満足：10% やや不満：0% 不満：0%

(2) 参加者の声

- ・協力して活動したり、互いに認め合って活動したりすることの素晴らしさを改めて学んだ。
- ・グループの中でより良く活動するために、自分の意見やみんなの意見を大切にして進めていくことが大切だと感じた。
- ・MAPの活動は、集団活動の仲間づくりに有効なアクティビティばかりだと感じた。
- ・7月実施だと、1学期末や夏休み明けにすぐに生かすことができるので適切な日程だ。
- ・学んだアクティビティを学級でも生かし、みんなが楽しく過ごせるような環境を作りたい。
- ・MAPとホワイトボードの振り返りが効果的で分かりやすかった。
- ・何度か参加しているが、毎回発見があり、自分自身、心と体が元気になって帰ることができる。
- ・アクティビティの参加者と、ファシリテーターとしての2つの立場・視点で参加することができた。
- ・ぜひ、学校でやってみたいことがたくさんあった。自分自身もたくさん楽しんだ。
- ・講師や職員は、困ったときに話しやすく、にこやかに接していただいた。
- ・メモする時間がほしいと思ったが、行ったアクティビティをホワイトボードに掲示していたのでフィードバックも充実していた。
- ・子どもたちに生かせる！というのも一つですが、自分自身の気持ちがあすっきりする、リフレッシュできる部分もあってよかった。ぜひ、クラスでもやってみたい。
- ・会話、コミュニケーションの大切さに再度気が付くことができ、多人数でこのような体験ができて久しぶりに楽しかった。
- ・アイスブレイクなど、参加者として楽しんでもらうため「目的」を説明してから取り組めるとよい。

(3) 成果

- ・MAP研究会と協力して行うことで、学校の教室や実際の指導現場をイメージできるような構成で活動を進めることができた。
- ・参加者の多くが若い先生方だったので、PAやMAPの手法を新しく学べるいい機会となった。
- ・コロナウイルス感染症対策のため、活動が制限される中で、消毒、ソーシャルディスタンスなど感染対策を講じた上で実施する方法を共有できるよい機会となった。
- ・振り返りにホワイトボードミーティングの手法を活用することで、指導現場での振り返りの方法や手法などを共有することができた。

(4) 課題

- ・当初は5月に1回目、7月に2回目開催の予定だったが、コロナの関係で、7月開催のみとなった。より学級づくり・集団作りに生かせる時期に開催するなど、時期や内容、2回開催した場合の講習内容などつながりなどを考慮していきたい。
- ・1日という短い時間での開催のため、アイスブレイクなどについては、目的を共有したり、振り返ったりする時間が短くなってしまった部分があった。参加者が現場で生かせるように目的や手法などをより意識してもらえるようにプログラムを構成していきたい。

担当：企画指導専門職 村山 浩康